ARiSE

AI for Science革新的研究推進事業

AI to Redesign Scientific Exploration; ARiSE

2026年10月13日

科学を支え、未来へつなぐ

科学技術振興機構

本事業の概要と特徴

【事業目的】 本事業では、AIを活用することで研究プロセスへの変革をもたらすことが可能な、**科学基盤モデル**、**AIエージェント**、**次世代AI駆動ラボシステム**など、**革新的な基盤技術の創出**に取り組むとともに、**AI for Scienceの国際ネットワークの構築**により、**我が国のAI for Scienceの加速・強化**を目指す。

【予算総額】 **320億円**（基金）

【研究期間】 **約2.5年間**（令和8年10月以降～令和11年3月末）

【5つの取組（特徴）】

① **AI研究者とドメイン研究者による共同提案（必須）**
➡ AI研究者とドメイン研究者が「共同代表者」として研究開発提案から実施までの共同運営

② **計算資源の利用**
➡ 研究開発課題の実施に際して必要な計算資源利用計画を提案時に作成

③ **国際連携の推進**
➡ 研究力の高い同盟国・同志国等との戦略的な国際連携を推奨

④ **研究データの取り扱い**
➡ オープン・アンド・クローズ戦略の下で研究データの管理・利活用を推進

⑤ **研究セキュリティの確保**
➡ 本事業は特定研究開発プログラムであるため、評価者・被評価者の双方に対して、選考に際してセキュリティ対応を実施

タイプ別概要

タイプ	戦略ターゲット型			国際・融合型
公募の対象	文科省が設定した戦略ターゲット、既に準備、試行を開始している取組を対象			特に限定しない （国際連携は推奨）
	ターゲット①	ターゲット②	ターゲット③	
	新素材開発速度従来比10倍の潜在力を有するAI駆動マテリアル開発システムの実現を目指す	3年後までに、高機能なバイオ製品や創薬の高効率設計に貢献するバイオ生成基盤モデルを開発	大型研究施設・研究装置において、世界最先端のAIエージェント群やAI基盤モデルを開発・実証	
研究体制	AI研究者とドメイン研究者との共同提案を必須			
計算資源	理化学研究所や大学・公的研究機関、民間企業等が提供する計算資源の利用計画を確認			
データの取扱い	データマネジメントプランを確認			
課題単価 （採択件数）	総額30億円程度 （2件程度） 総額10億円程度 （4件程度）	総額20億円程度 （3～4件程度）	総額20億円程度 （1～2件程度）	総額2億円程度 （20件程度）

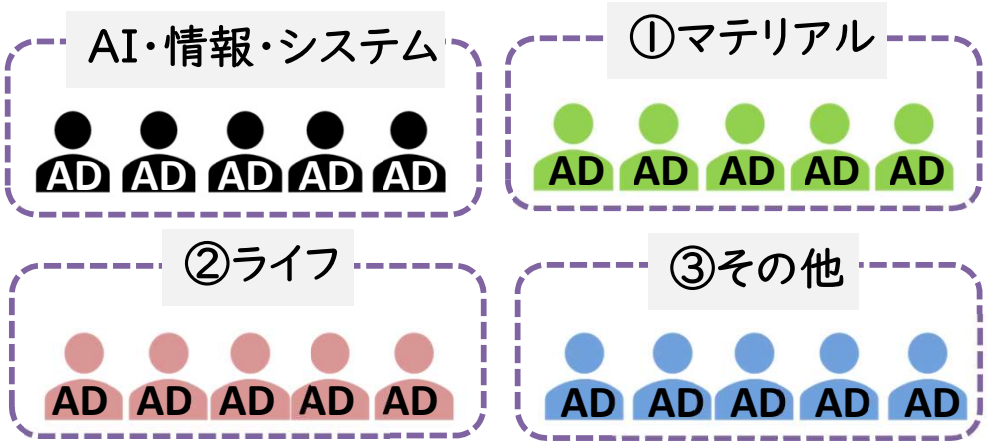
本事業の運営体制

PD（事業統括）
青木 孝文
（東北大学 理事・副学長）

戦略ターゲット型 PO（推進統括）
黒橋 禎夫
（国立情報学研究所 所長）

国際・融合型 PO（推進統括）
上田 修功
（理化学研究所 革新知能統合研究センター 副センター長）

アドバイザー（AD）



⇒応募された提案に基づき、**POがADの協力を得て、書類選考および面接選考を行い、採択課題を決定**。

AI for Scienceによる科学研究革新プログラム

令和9年度要求・要望額　1,653億円
うち「強く豊かな日本」投資枠　1,653億円
令和７年度補正予算額　370億円

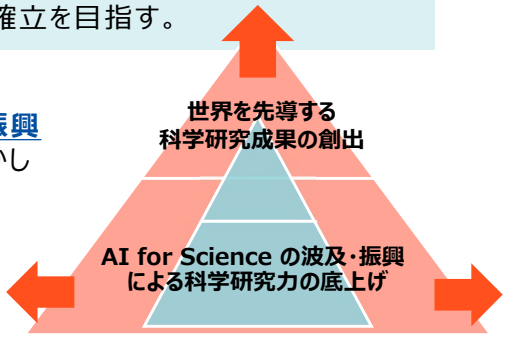
文部科学省

現状・課題

- **AI for Scienceは**AIを研究プロセスの全工程に組み込み、科学研究の全過程を変革し、従来到達困難だった科学的発見や社会実装の加速・実現を図る**「科学の再興」の要**。強い切迫感と危機感を持って取り組む必要がある。
- 文部科学省において本年３月に策定した「AI for Scienceの推進に向けた基本的な戦略方針」を踏まえ、**科学研究の革新と科学的発見の加速・質の変革**及び、**研究力の抜本的強化と科学の再興**の実現により、**自律性と信頼性を備えたAI for Science先進国**の地位の確立を目指す。

事業内容

AI for Science萌芽的挑戦研究創出事業（SPReAD）により産学含むあらゆる分野への**AI for Scienceの波及・振興による科学研究力の底上げ**を図るとともに、**AI for Science革新的研究推進事業（ARiSE）**において日本の強みを活かした最先端研究開発へのAI利活用の加速により**世界を先導する科学研究成果を創出**する。



ARiSE（基金事業）：1,420億円※JST事務費含む

事業実施期間　～令和11年度（予定）

- 日本のAI for Scienceと米国「ジェネシス・ミッション」との連携に向けた日米戦略的パートナーシップの発表（本年６月）をはじめ、AI for Scienceをめぐる国際動向・技術動向が急速に変化。
- 日本のAI for Scienceのフラッグシップ事業であるARiSEにおいて、国際連携及び産学連携等の強化・拡充を図り世界を先導する科学研究成果を創出。日本の研究力を抜本的に強化するとともに、世界のAI研究・技術エコシステムにおける日本の戦略的不可欠性を確立する。
  - ➢ 国際連携等の強化・拡充
    世界トップレベルのAI研究力をもつ同盟国・同志国との互恵的なデータ連携、基盤モデル開発等の共同研究開発プロジェクト、新興・融合分野の研究開発プロジェクト等を推進。
  - ➢ 産学連携の強化・拡充
    バーティカルAIの実現に向け、産学連携のためのコーディネート機能を活用することで大学・研究機関等や民間企業等がコンソーシアムを形成。競争領域・協調領域を踏まえたインセンティブ設計を行うことで民間企業等によるデータ提供を促し、当該データを基に大学・研究機関等はデータ基盤及びAI基盤モデル等を開発。

SPReAD（補助事業）：233億円※支援業務委託費含む

事業実施期間　～令和12年度（予定）

- あらゆる分野の研究者がAIを活用して科学研究の高度化・加速化を図るため、計算資源の確保等の研究環境を整備し、アカデミア全体にAI for Scienceの波及・振興を促進し、意欲ある研究者による次の種や芽となる新たなアイデアへの挑戦への支援を行うとともに、我が国独自の競争優位を築く先駆的な研究を創出する。
  - ➢ SPReADの継続・拡充
    令和８年度における運用上の課題等も踏まえ、採択規模の拡充及び制度改善を図る。
  - ➢ SPReAD⁺の新設
    SPReADで生まれた芽をその後の革新的な研究成果に繋げるため、中規模型の研究開発支援を実施するとともに、AI for Science研究者の成果創出を支えるための機関における環境整備・人材育成の取組を支援。

【事業スキーム】

国
↓ 補助
JST（基金）
↓ 委託
大学等
↓ 補助等

«ARiSE»

・件数：数十件程度
・規模：5~30億円程度/件
・期間：原則3年

«SPReAD»

<SPReAD>
・件数：3,000件程度
・規模：最大650万円/件
・期間：～１年程度

<SPReAD⁺>
（研究支援）
・件数：160件程度
・規模：最大2,600万円/件
・期間：２年

（機関支援）
・件数：15件程度
・規模：１億円程度/件
・期間：２年

（担当：研究振興局研究振興戦略官（人工知能活用担当）付）